

博多区内科医会だより

押領司行人

1) 月例会

20年9月9日(三鷹ホール)

「胸痛の鑑別—基本的診断ツールと新しい診断ツール」

福岡大学 医学部 心臓・血管内科学

助教 河村 彰 先生

1. 心電図変化が無い場合、胸写異常あれば大動脈瘤解離等、無ければ肺塞栓等疑う。心電図変化がある場合、持続性 ST↑なら梗塞や心筋心膜炎、一過性 ST↑なら狭心症(不安定)等疑う。

2. 冠動脈 CTの話(簡単に、スクリーニングとしても検査できる)

約90%の segment の評価が可能で、病変無しとの診断は99%当たる。冠動脈造影に代わり得る検査で、電話予約可能。

20年10月14日(火)(三鷹ホール) 博多区・中央区内科医会合同学術講演会

「C型肝炎ウイルスの臨床

—急性肝炎から慢性肝炎そして幹細胞癌—

国家公務員共済組合連合会 浜の町病院

肝臓病科部長 高橋 和弘 先生

C型急性肝炎では感染1-3週後に HCV-RNA(+)となり、慢性化阻止の治療を要する。母子感染が多い。C型肝炎の Genotype1かつ高ウイルス量でもペグインターフェロン・リバビリン併用療法が有効性が高い(50%)。線維化が少ない程(血小板が多いなど)、またγ-GTPが低い程効きやすい。65歳以上は効きにくい。ALT正常者の半分以上肝炎があり治療を要する。副作用は貧血、間質性肺炎、うつ病、網膜症、甲状腺機能異常などある。

又スタチンが有効かもしれない事、二重濾過血漿交換療法との併用ができる事、プロテアーゼインヒビターや寄生虫薬のニタナキソニドが効くかもしれない事等のお話があった。

20年11月11日(火)(三鷹ホール)

「2型糖尿病の治療戦略

—大血管症抑制を目指して—

産業医科大学医学部 第一内科学講座

講師 岡田 洋右 先生

糖尿病の細小血管障害は良く知られているが動脈硬化性疾患(心筋梗塞、脳梗塞)も多い。アクトスは冠動脈ステント再狭窄を抑制する。アクトスはアディポネクチンを上昇させ、インスリン抵抗性を改善し、動脈硬化を改善する。その他血圧をARB等で、脂質をスタチン等で厳重に管理する事が重要である事、強化療法は低血糖に陥りやすくやや危険である事等を御講演頂いた。

2) 研究会御案内(自由参加、5単位)

消化器懇話会(三鷹ホール)

第1月曜 19:00~ 古賀安彦先生(古賀胃腸科医院)

循環器懇話会(三鷹ホール)

第4月曜日 19:00~ 林靖生先生(原三信病院)

丸山徹先生(九州大学健康科学センター)